

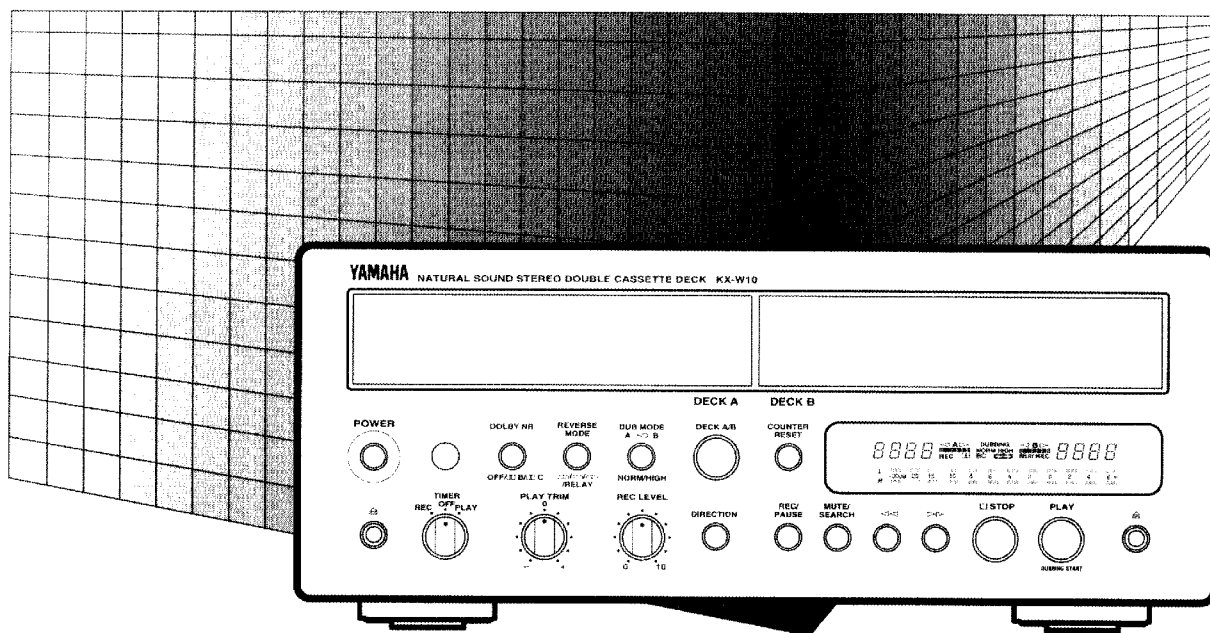
YAMAHA

NATURAL SOUND STEREO
DOUBLE CASSETTE DECK

CENTER

KX-W10

取扱説明書



このたびは、ヤマハステレオカセットデッキKX-W10をお買い求めいただきまして、まことにありがとうございます。

本機の優れた性能を十分に発揮させるとともに、末永くご愛用いただくために、この取扱説明書をご使用の前にぜひお読みくださいようお願いいたします。

お読みになったあとは、保証書とともに保管してください。

目次

ご使用上の注意	2
付属品	3
特長	3
接続のしかた	3
各部の名称と働き	4
再生のしかた	5~8
基本操作	5
曲の頭出し	7
リレー再生	8
録音のしかた	9~13
基本操作	9
高音質で録音するために	11

リレー録音	12
デュアル録音	12
曲の頭出しに便利なテープを作る	13
録音を開始した位置まで戻る	13
ダビング	14
タイマー録音/再生	15
カセットテープについて	16
ヘッドの清掃	17
リモコンについて	17
仕様	17
故障かなと思ったら	18
ヤマハホットラインサービスネットワーク	19

ご使用上の注意

■電源

国内のみでご使用ください。
 家庭用電源コンセント(AC 100V)に接続してください。
 * 上記以外の使用は故障や事故の原因になります。



■電源コード

電源コードをひっぱらないでください。(プラグを持って抜いてください。)

電源コードの上に重いものをのせないでください。
 * 電源コードが断線したり、感電の原因になります。



■本体

キャビネットは開けないでください。
 本体内に金属類(針・硬貨など)を落とさないでください。本体内に液体(水・アルコールなど)をこぼさないでください。



本体内に燃えやすい物(紙・布など)を落とさないでください。

* 火災・感電・故障の原因になります。



■設置場所

不安定な台の上や、傾いた所には置かないでください。
 * 落下すると危険です。



湿気の多い所、ほこりの多い所には置かないでください。
 直射日光のあたる所、温度の高い所、極端に寒い所には置かないでください。

* 動作不良や故障の原因になります。

■長期間使わない場合

旅行や外出などで留守にされる場合は、安全のために電源スイッチを切り、電源コードをコンセントから抜いてください。
 * 不慮の事故で火災の原因となります。



高温・低温はさけて!

窓際や直射日光の当たる場所、暖房器具のそばなど極端に暑い場所(周囲温度40°C以上)・温度の特に低い場所(周囲温度-5°C以下)はさけてください。

国内のみ使用可

家庭用電源コンセント AC100V

ほこり・水気をさけて!

不安定な場所をさけて!

薬物厳禁

開けないで!

引っばらないで!

ヘッドの清掃を

17ページの「ヘッドの清掃」をご覧ください。

こわれた?

18ページの「故障かなと思ったら」をご覧ください。

取扱説明書はかならず保管してください。

ファイルなど

エンドステープは使わないで!



これは電子機械工業会「音のエチケット」キャンペーンのシンボルマークです。

音楽を楽しむエチケット

楽しい音楽も時と場所によっては大変気になるものです。隣近所への配慮を十分にしましょう。

静かな夜間には小さな音でもよく通り、特に低音は床や壁などを伝わりやすく、思わぬところに迷惑をかけています。適当な音量を心がけ、窓を開めたり、ヘッドホーンをご使用ください。音楽はみんなで楽しむもの、お互いに快適な生活環境を守りましょう。

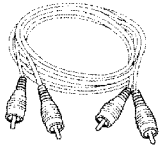
保証書の手続きを

お買い求めいただきました際、購入店で必ず保証書の手続きを行ってください。保証書に販売店名、購入日などがありませんと、保証期間中でも万一サービスの必要がある場合に実費をいただくことがありますので、充分ご注意ください。

あなたが録音したテープは個人として楽しむなどのほかは、著作権法上、権利者に無断での使用は禁止されています。

付属品

付属品を確認してください。



ピンプラグコード x 2

特長

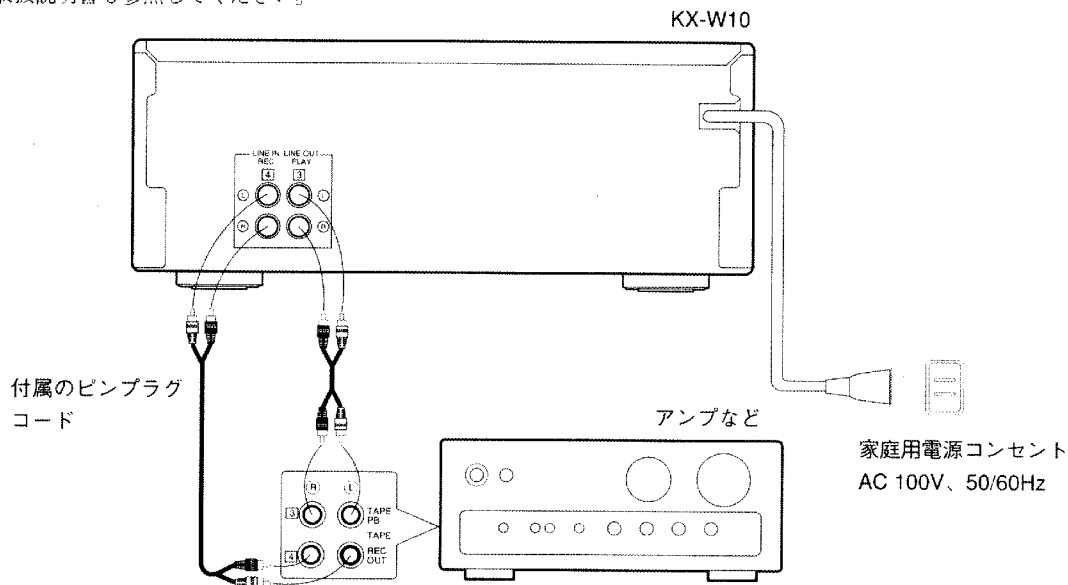
- 音質重視の機能
 - ドルビー-HX Proおよびドルビー-B/Cノイズリダクションを搭載
 - 他のデッキとのより良い互換性を実現するプレイトリムコントロールを装備
- 操作性重視の機能
 - オートテープセレクター搭載
 - ピーク保持機能つきピークレベルメーター
- 再生時の機能
 - 前後1曲頭出し
 - デッキA-B連続リレー再生
- 録音時の機能
 - デッキA、B同時録音
 - デッキA-B連続リレー録音
 - レックミュート(曲間で4秒間の無録音部分をつくる機能)
 - レックリターン(録音を開始したところへもどる機能)
 - ゼロリターン(テープカウンターをリセットしたところへ戻る機能)
 - 高速ダビング/ノーマルダビング

接続のしかた

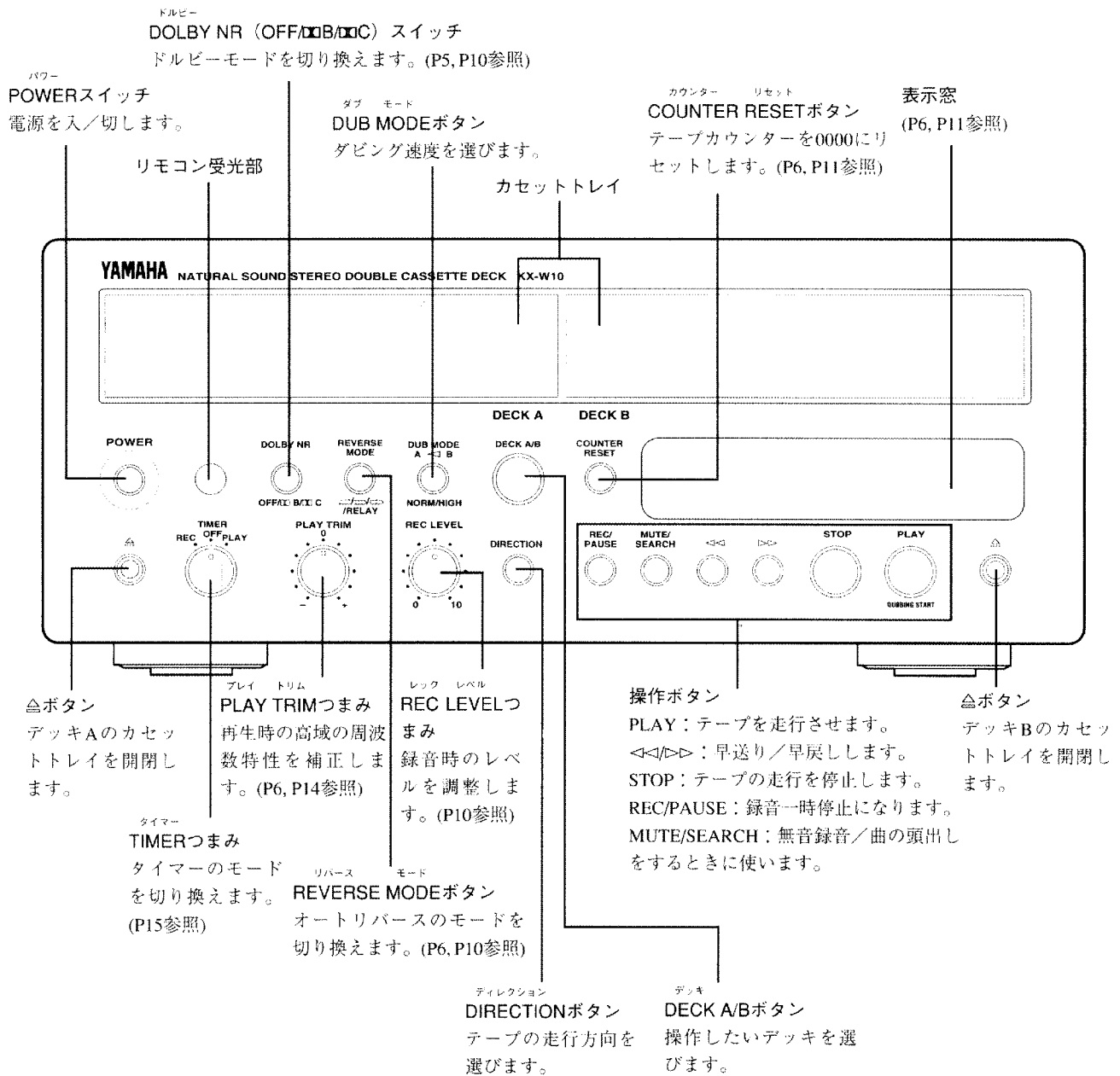
- 接続の際は各機器の電源を切り、右チャンネル(R)、左チャンネル(L)を確認し、付属のピンプラグコードで確実に接続してください。
- 接続するアンプによっては端子名などが異なります。接続するアンプの取扱説明書も参照してください。

ヤマハAX-10をご使用の場合は、各機の③と④の番号がついた端子をそれぞれ接続してください。

- 接続が完了したら、電源コードを家庭用電源コンセントまたはアンプなどの背面の電源コンセントに差し込んでください。



各部の名称と働き



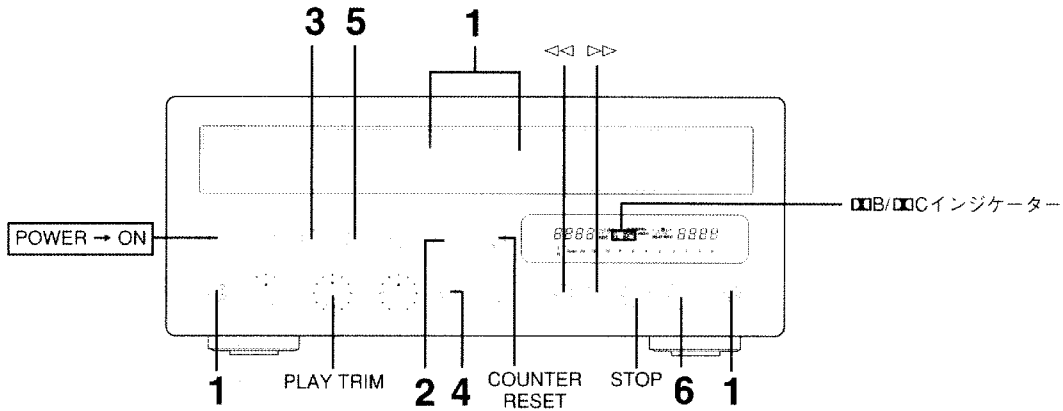
再生のしかた

再生の準備

- **POWER** を押して電源をONにします。
- アンプの入力をテープにします。

説明文中の **DECK A/B** はボタン、端子などの名称です。

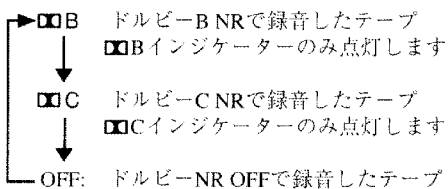
基本操作



<p>1</p> <p>デッキAまたはBの DECK A/B を押して、再生したいテープを、テープがじかに出ている面を奥にしてカセットトレイにのせてください。再生したい面を上にしたときはテープの走行方向は▷を選びます。(手順4を参照してください。) DECK A/B を押して、トレイを閉じます。</p>	<p>2</p> <p>DECK A/B を押してテープをセットしたデッキを選びます。選ばれたデッキがインジケータに点灯されます。</p>	<p>3</p> <p>DOLBY NR 録音時に使用されたドルビーノイズリダクションに合わせます。(下記の説明を参照してください。)</p>
<p>4</p> <p>DIRECTION を押してテープの走行方向を選びます。ボタンを押すたびにテープの走行方向が切り換わり、ディスプレイのテープ走行インジケータ▷または◁が点灯します。</p>	<p>5</p> <p>REVERSE MODE を押してテープのオートリバースモードを選びます。(次ページの説明を参照してください。)</p>	<p>6</p> <p>PLAY を押すと再生が始まります。</p>

DOLBY NRのセット(手順3)

DOLBY NR を押すたびに、次のように切り換わります。



* ドルビーノイズリダクションはドルビーラボラトリーズライセンスコーポレーションからの実施権に基づき製造されています。
DOLBYおよび**ダブルD**記号はドルビーラボラトリーズライセンスコーポレーションの登録商標です。

- 正しくセットしないと不自然な音になりますので注意してください。

REVERSE MODEのセット(手順5)

オートリバースモードの設定により、テープの走行動作が異なります。オートリバースモードは、このボタンを押すたびに▶、◀、◂、◃、◄、◅ RELAYの順に切り換わります。下記を参考にして設定してください。

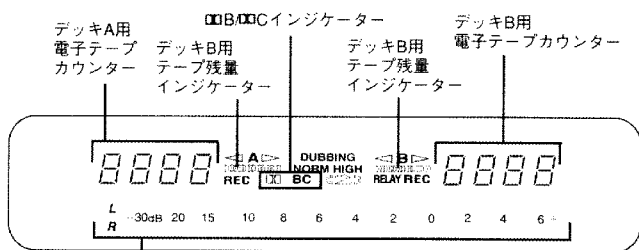
▶: 再生している面のテープエンドで止まります。早送り、早戻しをしてもその面のテープエンドで止まります。

◂: 表面から裏面に続けて再生し、裏面のテープエンドで止まります。(テープ走行が◀にセットされていると裏面を再生したあとテープエンドで止まり、表面の再生には移りません。)
表面のテープエンドまで早送りすると、裏面の最初から自動的に再生が始まります。
裏面のテープ頭まで早戻しすると、裏面の最初から自動的に再生が始まります。

◃: テープの両面を繰り返し再生します。(最高8回まで再生できます。)
テープエンドまで早送りすると、自動的に反対面の再生が始まります。テープの頭まで早戻しすると、自動的に同じ面の再生が始まります。

◅ RELAY: デッキAとデッキBの間でリレー再生します。(デッキA、デッキBどちらかのテープが未装着のときは◂と同じ動作をします。) 8ページの説明を参照してください。

再生時のディスプレイ



ピークレベルメーター
再生中(または録音中)に、-30dBから+6dBの範囲で信号レベルのピークを表示します。左右それぞれのチャンネルについて、メーターが独立しています。ピーク値を読み取りやすいように、1.5秒間ピークレベルを表示し続けるピーク保持機能があります。(ピークホールドは-10dBから+6dBの間のレベルで働きます。)

早送り

テープ走行インジケータ▶が点灯しているとき
▶を押します。

テープ走行インジケータ◂が点灯しているとき
◂を押します。

早戻し

テープ走行インジケータ▶が点灯しているとき
◂を押します。

テープ走行インジケータ◂が点灯しているとき
▶を押します。

音量の調節

アンプで音量を調節します。

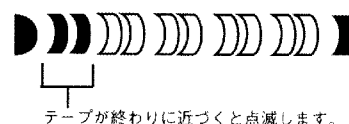
再生を止める

STOPを押すと止まります。カセットテープを取り出すには、▶を押します。

本機を使わないときは、POWERを押して電源を切ってください。

テープ残量インジケータ

再生中のテープの残量を示します。インジケータは、テープの走行方向に関係なく常に右から消灯していきます。



注意) このテープ残量インジケータ動作は使用するテープの長さ、種類、ハブの大きさによって異なる場合があります。あくまでも、テープ残量を知る目安としてお使いください。

電子テープカウンター

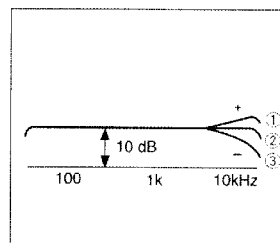
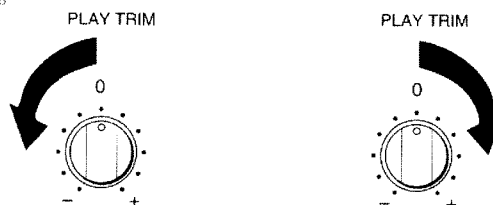
テープ上の位置を0000から9999で示します。カウンターを0000に戻すにはCOUNTER RESETを押します。

プレイトリム

他のカセットデッキで録音したテープを再生したときに、高域が強調されすぎたり、逆に弱かったりする場合には、高域の特性をPLAY TRIMで調整してください。

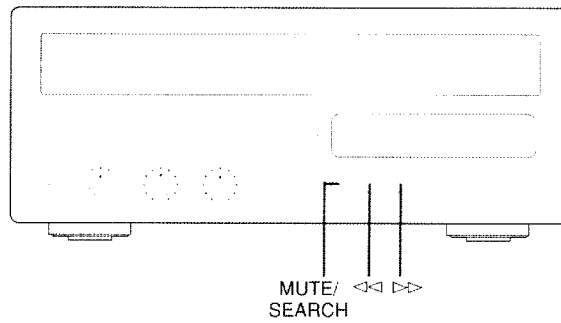
高域の音が強調されすぎていてうるさく感じる場合には、高域のレベルを下げます。

高域がもの足りない場合には、高域を上げます。



- ① 高域が強すぎる。
- ② 平坦
- ③ 高域が弱い。

一曲の頭出し

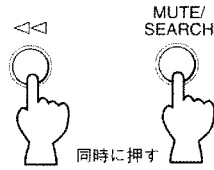
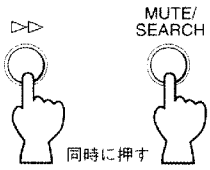


次の曲の頭出し

▶▶または◀◀とMUTE/SEARCHを同時に押すと次の曲の頭出しができます。

▷インジケータが点灯しているとき

◁インジケータが点灯しているとき



曲の頭出しに関する注意点

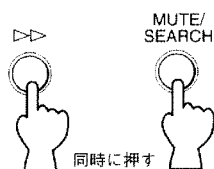
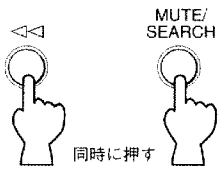
- 頭出しは曲と曲の間の無録音部分を探すことで機能します。無録音部分は少なくとも4秒間必要です。録音するときに4秒間の無録音部分をつくっておくと、再生時に頭出し機能が使えて便利です。無録音部分の作り方については13ページを参照してください。
- 無録音部分が4秒以下のテープ、雑音の大きいテープや音のレベルが非常に低いテープまたは、フェードイン、フェードアウト録音されているテープでは誤動作することがあります。

今の曲、または前の曲の頭出し

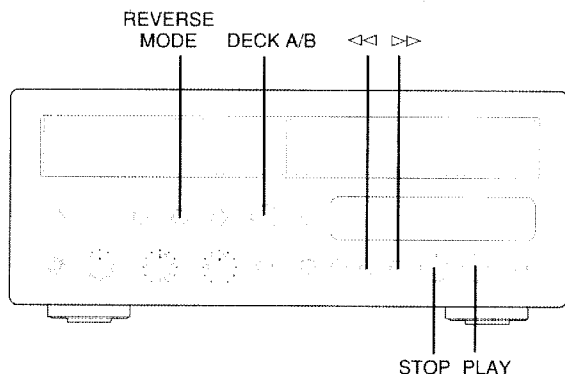
◀◀または▶▶とMUTE/SEARCHを同時に一度押すと今の曲の頭に移ります。今の曲の頭から数秒以内にもう一度◀◀または▶▶とMUTE/SEARCHを押すと、その前の曲の頭に移ります。

▷インジケータが点灯しているとき

◁インジケータが点灯しているとき



リレー再生

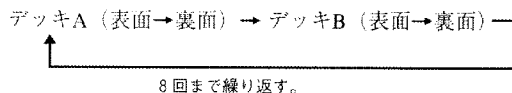


デッキAとデッキBの間でリレー再生ができます。テープをデッキAとデッキBにセットし、**REVERSE MODE**でRELAYモードにしてください。デッキAの**PLAY**を押して再生を始めます。

REVERSE
MODE



ディスプレイにRELAYインジケータが点灯し、リレー再生モードに入ります。



- ドルビーNRはデッキAの設定がデッキBにも有効となります。

デッキA、B間を8回繰り返すとリレー再生は自動的に止まりますが、その前に止めたいときは**STOP**を押します。

再生中のデッキから他方のデッキに切り換える

DECK A/Bで再生していないデッキを選んで**PLAY**を押すと、再生中のデッキは自動的に停止し他方のデッキが再生を始めます。このような場合にもリレー再生のモードは継続されます。

再生中のデッキを早送り／早戻しする

DECK A/Bで再生中のデッキを選んで<<<または>>>を押します。早送り、早戻しについては6ページの説明も参照してください。


リレー再生モードを終了するには

REVERSE MODEを押してRELAYインジケータが消えるようにしてください。

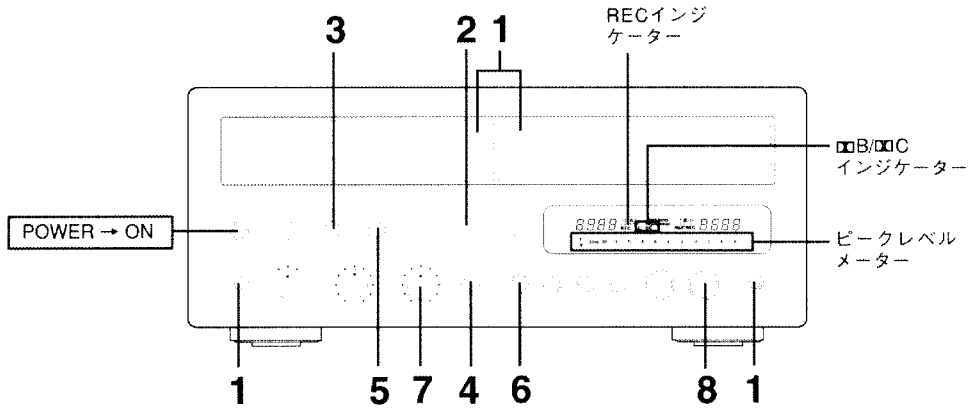
録音のしかた (デッキA、デッキBどちらでも録音できます。)


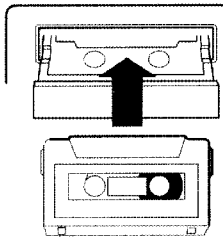
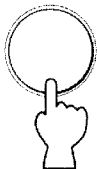


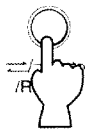



録音の準備

- **POWER** を押して電源をONにします。

説明文中の  はボタン、端子などの名称です。

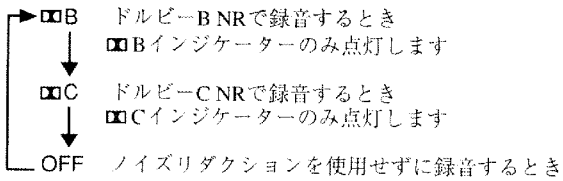
基本操作



<p>1</p>   <p>録音に使用するテープを、テープがじかに出ている面を奥にしてカセットトレイにのせて下さい。録音したい面を上にしたときはテープの走行方向は▷を選びます。(手順4を参照してください。)</p> <p>△を押してトレイを閉じます。</p>	<p>2</p> <p>DECK A/B</p>  <p>DECK A/Bを押してテープをセットしたデッキを選びます。選ばれたデッキがインジケータで表示されます。</p>	<p>3</p> <p>DOLBY NR</p>  <p>DOLBY NRでノイズリダクションをセットします。(次ページの説明を参照してください。)</p>	<p>4</p> <p>DIRECTION</p>  <p>DIRECTIONボタンを押してテープの走行方向を選びます。ボタンを押すたびにテープの走行方向が切り換わり、ディスプレイのインジケータ▷または◁が点灯します。</p>
<p>5</p> <p>REVERSE MODE</p>  <p>REVERSE MODEボタンを押してテープのオートリバースモードを選びます。次ページの説明を参照してください。</p>	<p>6</p> <p>REC/PAUSE</p>  <p>REC/PAUSEを押します。ディスプレイのRECインジケータが点灯し、録音一時停止(レックポーズ)になります。</p>	<p>7</p> <p>REC LEVEL</p>  <p>録音するソース(ラジオ放送やCDなど)を再生し、REC LEVELで録音レベルを調節します。(次ページの説明を参照してください。)</p>	<p>8</p> <p>PLAY</p>  <p>PLAYを押すと録音が始まります。</p>

DOLBY NRのセット(手順3)

DOLBY NRを押すたびに、次のように切り換わります。

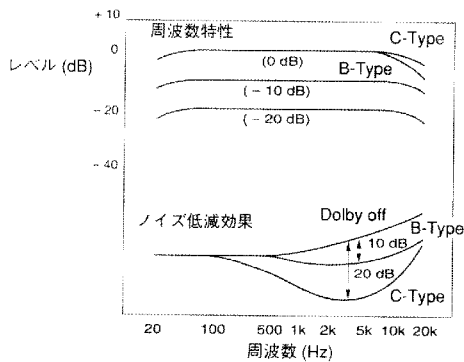


ドルビーNRについて

カセットテープの場合、高音域でのテープのヒスノイズが主な雑音源になります。このヒスノイズを減らすため、本機ではドルビーB NRまたはドルビーC NRを使用できます。

ドルビーB NRでは、高域周波数において約10 dBの改善効果がありますが、ドルビーC NRでは、人間の耳が最も敏感な帯域(2 kHzから8 kHz)で約20 dBの改善効果が得られ、さらに10 kHz以上の帯域では、テープの高域MOL(最大録音レベル)特性を改善することができます。

下図は、ドルビーB NRとドルビーC NRで録音・再生したときの周波数特性とノイズ低減効果を表したものです。



なお、ドルビーNRシステムは録音/再生の両過程で働くので、再生時には録音したときのドルビーNRの設定と同じ状態にしてください。

REVERSE MODEのセット(手順5)

オートリバースモードの設定により、テープの走行動作が異なります。オートリバースモードは、このボタンを押すたびに、、、 RELAYの順に切り換わります。下記を参考にして設定してください。

: 録音している面のテープエンドで止まります。

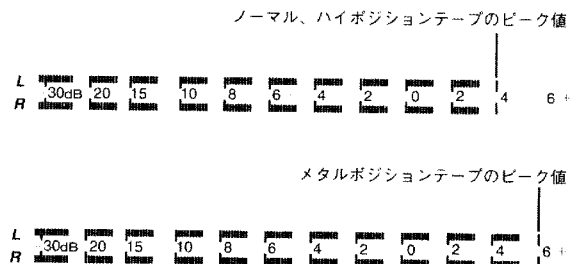
、: 表面から裏面に続けて録音し、裏面のテープエンドで止まります。(テープ走行がにセットされていると裏面を録音したあとテープエンドで止まり、表面の録音には移りません。)

RELAY: デッキAからデッキBにリレー録音します。12ページの説明を参照してください。(デッキA、デッキBどちらかのテープが未装着のときはと同じ動作をします。)

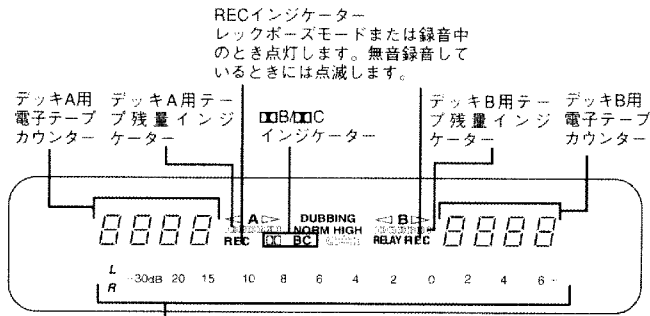
録音レベルの調節(手順7)

録音レベルの調節は、雑音や歪みの少ないきれいな音で録音するための重要なポイントです。レベルが低すぎるとテープの雑音(ヒスノイズ)が耳につき、逆に高すぎると音は歪み、特に高音がきれいに録音できません。

一番大きな音が入ったときのピークレベルメーターの振れが、ノーマルポジションまたはハイポジションのテープに録音するときは+4 dB、メタルポジションテープに録音するときは+6 dBを越えないように、**REC LEVEL**を回して調節してください。



録音時のディスプレイ



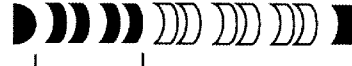
RECインジケーター
レックポーズモードまたは録音中のとき点灯します。無音録音しているときには点滅します。

ピークレベルメーター
録音中(または再生中)に、-30dBから+6dBの範囲で信号レベルのピークを表示します。左右それぞれのチャンネルについて、メーターが独立しています。ピーク値を読み取りやすいように、1.5秒間ピークレベルを表示し続けるピーク保持機能があります。(ピークホールドは-10dBから+6dBの間のレベルで働きます。)

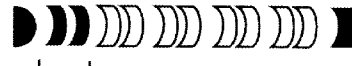
テープ残量インジケーター

録音中のテープの残量を示します。インジケーターは、テープの走行方向に関係なく常に右から消灯していきます。

録音時



テープの残量を点灯して表示します。



テープが終わりに近づく点滅します。

注意) このテープ残量インジケーター動作は使用するテープの長さ、種類、ハブの大きさによって異なる場合があります。あくまでも、テープ残量を知る目安としてお使いください。

録音の一時停止(レックポーズ)

REC/PAUSEを押します。録音するソースを変えたとき、録音レベルの再調節ができます。録音を再開するにはPLAYを押します。

録音を止める

STOPを押すと止まります。カセットテープを取り出すには、Eを押します。

本機を使わないときは、POWERを押して電源を切ってください。

電子テープカウンター

テープ上の位置を0000から9999で示します。カウンターを0000に戻すにはCOUNTER RESETを押します。

CDシンクロ録音機能

リモコンにSYNCHROボタンのついているヤマハのCDプレーヤーと組み合わせると、CDシンクロ録音ができます。この機能は、CDプレーヤーのリモコンを用いて操作します。リモコンのSYNCHROボタンを押すと本機はレックポーズになります。(詳しくは、CDプレーヤーの取扱説明書をお読みください。)

— 高音質で録音するために —

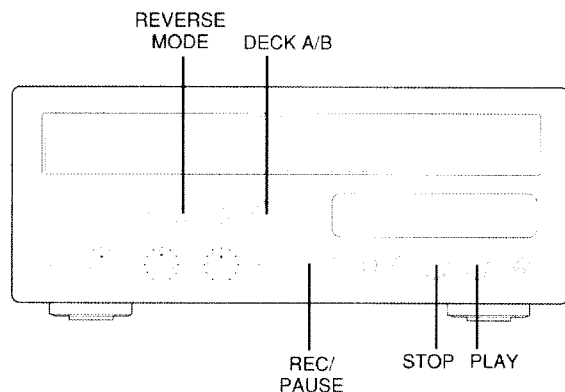
本機は、オートテープセレクトターおよびドルビーHX Proダイナミックサーボシステムを搭載しています。オートテープセレクトターはテープの材質によって録音特性を変更し、ドルビーHX Proダイナミックサーボシステムは録音中に有効バイアス値を自動的に調節します。

ドルビーHX Proダイナミックサーボシステム

本機はドルビーHX Proシステムを搭載しています。録音をする際、録音ヘッドには音楽信号とともにテープの種類に合わせたバイアス電流が流れています。このバイアス電流は少なすぎると歪みが増加し、必要以上に多くなると音楽信号の高域成分を劣化(ハイ落ち)させる働きがあります。ドルビーHX Proは入力信号の周波数成分とレベルに応じてバイアス量が最適になるように自動的にコントロールしますので、高域のダイナミックレンジや周波数特性が改善されます。また、ドルビーHX Proはノイズリダクションシステムではなく録音時にのみ自動的に働くシステムであるため、ドルビーHX Proを搭載していないデッキで再生しても何ら効果は変わりません。

ドルビーノイズリダクションおよびHX Proヘッドルームエクステンションはドルビーラボラトリーズライセンスングコーポレーションからの実施権に基づき製造されています。HX Proはバング&オルフセンの開発によるものです。

DOLBY、ダブルD記号DDおよびHX Proはドルビーラボラトリーズライセンスングコーポレーションの登録商標です。



リレー録音

デッキAとデッキBで連続して録音することができます。録音はデッキAからおこないます。

- 1 テープをデッキAデッキBの両方にセットします。
- 2 **DECK A/B**を押してデッキAを選びます。(デッキAのインジケータが点灯します。)
- 3 基本操作 (9ページ) の手順3、手順4にしたがいノイズリダクションとテープの走行方向の調節を行います。

- 4 **REVERSE MODE**でテープのオートリバースモードを \leftrightarrow RELAYにし、基本操作 (9ページ) の手順6、手順7にしたがいレックポーズ状態にして録音レベルを調節します (9ページ、手順7を参照ください)。

- 5 **PLAY**を押すと録音が始まります。

- ドルビーNR、オートリバースモード、録音レベルはデッキAの設定がデッキBにも有効になります。
- 両方のデッキにセットされたテープの両面に録音するためには、テープを表面の最初まで巻き戻してからディスプレイの▷を点灯させます。◁が点灯しているときは録音ソースはテープの裏面にしか録音されません。

デュアル録音

録音するソース (ラジオ放送やCDなど) をデッキAとデッキBの両方で同時に録音できます。同じ録音内容のテープを同時につくるためには、セットするテープは長さと同種類のものをご使用ください。

- 1 それぞれのデッキにテープをセットします。
- 2 **DECK A/B**を押してデッキAを選びます。(デッキAのインジケータが点灯します。)
- 3 基本操作 (9ページ) の手順3から手順5にしたがいノイズリダクション、テープの走行方向とオートリバースモードの選択を行います。(\leftrightarrow RELAYを選んだときは \leftrightarrow と同じ動作をします。)
- 4 **REC/PAUSE**を押します。
- 5 録音するソースを再生して録音レベルを調整します (9ページ、手順7を参照ください)。

- 6 **DECK A/B**を押してデッキBを選びます。(デッキBのインジケータが点灯します。) テープの走行方向を選びます。

- 7 **REC/PAUSE**を押します。(デッキBのRECインジケータが点灯します。)

- 8 **PLAY**を押すとデッキAとデッキBで同時に録音が始まります。

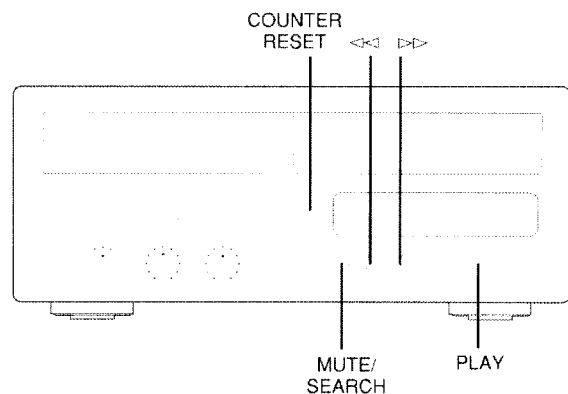
- ドルビーNR、オートリバースモード、録音レベルはデッキAで設定したものと同じになります。
- いったんデュアル録音が始まると、**REC/PAUSE**や**STOP**を押したり、オートレックミュートやレックリターンの操作をするとデッキA、デッキBの両方に働きます。

録音の一時停止

REC/PAUSEを押します。両方のデッキが一時停止の状態になります。

テープの途中で録音を止めたいとき

STOPを押します。両方のデッキが録音を止めます。



一曲の頭出しに便利なテープを作る

(オートレックミュート)

曲と曲の間に適当な無録音部分（4秒間）を作っておくと、再生するとき曲の頭出しができて便利です。

録音中、無録音部分を作りたいところで**MUTE/SEARCH**を押します。



RECインジケータが点滅し、4秒間の無録音部分を自動的につくったあとレックポーズになります。(RECインジケータは点灯。)

再び録音を始めるには、**PLAY**を押します。

- 4秒以上の無録音部分をつくるには**MUTE/SEARCH**を押し続けます。ボタンを放してから4秒間の無録音部分を作ったあとレックポーズになります。
- 4秒以下の無録音部分をつくるには、オートレックミュート中に**PLAY**を押してください。その部分から再び録音されます。

録音を開始した位置まで戻る

(レックリターン)

ある部分の録音をやり直したいときや、録音状態をチェックしたいときなど、録音を開始した位置まで戻ることができます。

録音中またはレックポーズ中に**◀◀**または**▶▶**を押します。

▶インジケータが点灯しているとき

◀インジケータが点灯しているとき



録音を始めたところまで巻き戻され停止します。録音モードは解除されてしまうので、再び録音を始めるには**REC/PAUSE**を押してから**PLAY**を押します。

- 録音中に**PLAY**を押すとその位置が記憶され、左記の操作で**PLAY**を押した位置まで戻ります。

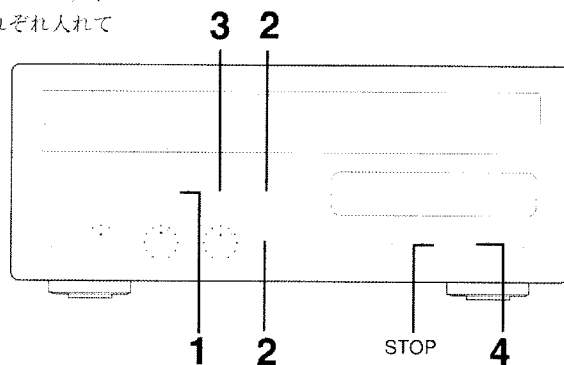
PLAYを数回押した場合には、最後に押した位置が記憶されます。

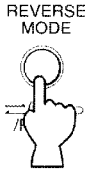
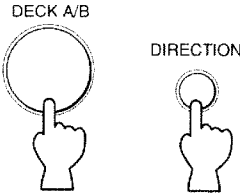
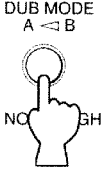

- 録音中に**COUNTER RESET**を押してカウンターをリセットすると、その位置が記憶され、左記の操作で**COUNTER RESET**を押した位置まで戻ります。

ダビング

(デッキBからデッキAにダビングできます。)

デッキAには録音テープ（ブランクテープ）、
デッキBにはオリジナルテープをそれぞれ入れて
ください。



<p>1</p>  <p>REVERSE MODE でテー プのオートリバースモード を選びます。(10ページの 説明を参照してください。)</p>	<p>2</p>  <p>DECK A/B とDIRECTIONで デッキAとデッキBの走行方向を セットします。</p>	<p>3</p>  <p>DUB MODE A <-> B を押し、NORM または HIGH を 選びます。</p> <ul style="list-style-type: none">● 音質を重視する場合は、NORMに します。● ボタンを押すたびにディスプレイ の"NORM"または"HIGH"が交互に 点滅します。	<p>4</p>  <p>PLAYを押すとダ ビングが始まりま す。</p>
---	---	--	---

ダビング中の操作

デッキAでレックリターン機能を使用することができます。ダビング中は<<R/>>でデッキAを操作することができますが、巻戻し方向のみの操作となります。

ダビング中に片方のデッキがテープエンドまで来たとき

デッキAがテープエンドまで来ると、両デッキとも同時に止まります。デッキBがテープエンドまで来るとデッキBは止まり、デッキAは約4秒間の無録音部分を作ってから止まります。

ダビングを止める

STOPを押します。

DECK A/BでデッキAが選ばれていると、両デッキとも同時に止まります。デッキBが選ばれているとデッキBが止まり、デッキAは約4秒間の無録音部分を作ってから止まります。

ドルビーNRの設定について

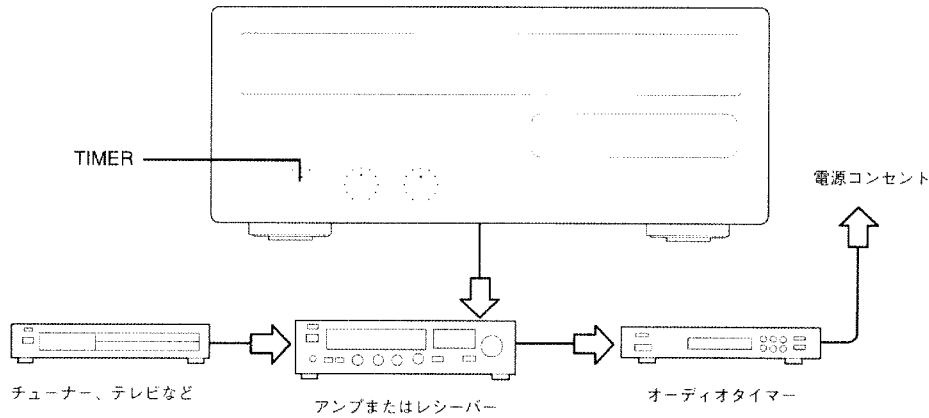
ダビング中のドルビーNRは**DOLBY NR**の設定にかかわらず自動的にダビングするテープ（送り出し側のテープ）と同じドルビーNRとなります。

プレイトリム

通常は0ポジションにしますが、ダビングするテープ（送り出し側のテープ）の高域が強調されすぎていたり、逆に弱かったりする場合には、高域の特性を**PLAY TRIM**で調整してください。（調整のしかたについては6ページを参照してください。）

ダビングしたときの高域特性は録音側のテープの種類やダビングスピードにより異なりますので、一度試しダビングをして効果を確認してから正式にダビングをしてください。

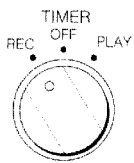
タイマー録音／再生



市販のオーディオタイマーを接続して使用することにより、録音／再生をセットした時間に自動的に開始することができます。

タイマー録音

- 1 タイマーとアンプとの間の接続がすべて適切に行われていることを確認してください。デッキとアンプとの間その他の接続を変える必要は一切ありません。
- 2 それぞれの機器の電源をONにしたあと、録音したい放送局をチューナーで選び、アンプの音量を下げてください。アンプの音量を下げても、録音される信号のレベルには関係ありません。録音レベルを適切にセットしてください。
- 3 タイマーを希望の時間にセットしてください。あとで編集しやすいうように、実際に録音を開始したい時間よりわずかに早く録音を始め、実際の番組の終わりより少し遅く録音を終了するようにタイマーをセットすることをお勧めします。
- 4 本機の**TIMER**をRECにセットします。

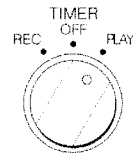


- 5 セットされた時間にタイマーがアンプ、チューナーおよびデッキの電源をONにして録音を開始します。

- **DECK A/B**で選ばれているデッキで録音が始まります。

タイマー再生

- 1 接続はタイマー録音のときと同様です。
- 2 アンプの電源をONにして、音量とトーンを調節してください。
- 3 アンプの入力モードスイッチをテープに合わせます。
- 4 タイマーを、再生を開始および終了する時間にセットします。
- 5 本機の**TIMER**をPLAYにセットします。



- 6 セットされた時間にタイマーがアンプおよびデッキの電源をONにして再生を開始します。セットされた終了時間になると電源がOFFになり、再生を終了します。

- **DECK A/B**で選ばれているデッキで再生が始まります。ただし選ばれたデッキにテープがセットされていない場合はもう一方のデッキで再生が開始されます。

- タイマー録音／再生が終わった後は、かならず**TIMER**をOFFに戻してください。RECまたはPLAYにセットしたまま電源を切ると、再び電源が入ったとき(電源プラグを差し込みなおしたときや停電後電力が復帰したとき等)に不要な録音または再生をしてしまいます。

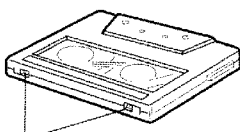
カセットテープについて

カセットテープには多種多様な製品がありますが、その構造については規格が統一されており、各メーカーのものが共通に使用できます。

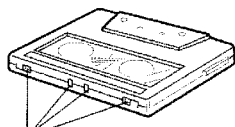
* C-120テープはテープが薄いため、音質面でも音楽の録音には適当ではありません。

カセットテープの材質による種類とカセットハーフの構造

カセットテープは磁性材質によって特性が異なります。そこで、そのテープにあったバイアス値とイコライザー特性を選択する必要があります。本機はオートテープセレクト機能を内蔵していますので、カセットテープを装着するだけでそのテープに最適なバイアス電流とイコライザー特性、テープ感度に自動的に切り換わり、それぞれのテープの性能を発揮させることができます。テープの種類を検出には図のような検出用の穴を利用しています。



ハイポジションテープ
検出用の穴

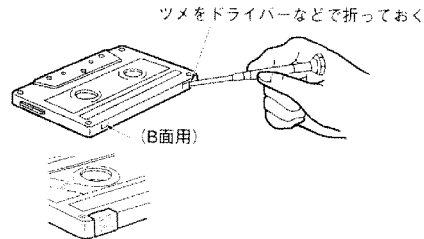


メタルポジションテープ
検出用の穴

- * カセットハーフに検出用の穴がないテープ（旧タイプのメタルポジションテープなど）ではオートテープセレクトが働かません。
- * 旧タイプのメタルポジションテープ（検出穴のないもの）を使用すると、ハイポジションで録音・再生されます。テープによっては録音しても前の音が残ったり、音が歪むことがあります。

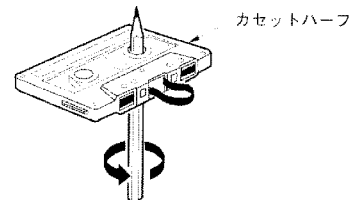
録音内容の保存

カセットハーフには大切な録音を誤って消さないように、消去防止用の穴があります。消去防止には、録音後この穴のツメをドライバーなどで取り去ります。ツメを折ったテープに再び録音するには、セロハンテープなどで穴をふさいでください。このとき、検出用の穴をふさいでしまわないよう注意してください。



テープのたるみを直す

テープがたるんだり、飛び出したまま使用すると、キャプスタンやピンチローラーにテープがからみつく原因になります。このような場合には、カセットハーフのリール軸に鉛筆などを差し込んでテープを巻き取り、たるみを直してから使用してください。



カセットテープの保管

再生／録音途中のテープは早送りや巻戻しをして、完全に片方の軸に巻取ってからカセットケースに収納してください。保管場所は直射日光の当たる場所（高温）、湿気や磁気のあるところ（テレビやスピーカーの近く）を避けてください。高温や湿気はテープをいため、磁気は録音内容を消すことがあります。

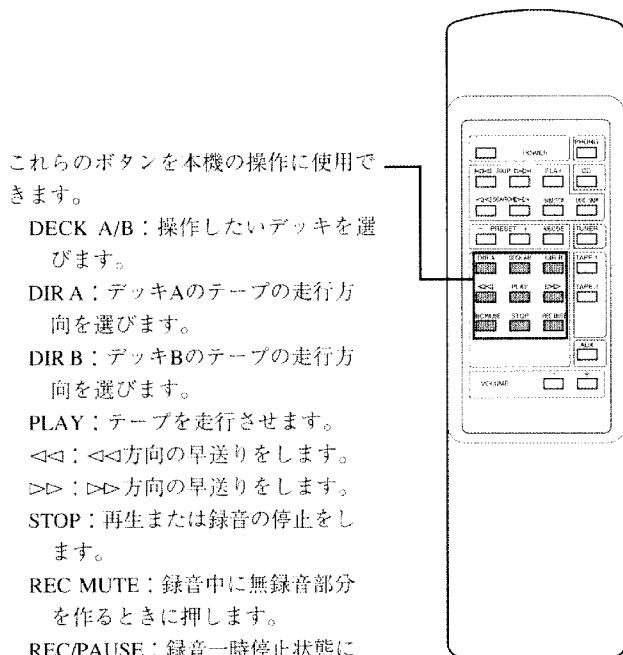
ヘッドの清掃

デッキを長時間使っていると、キャブスタン、ピンチローラーおよびヘッドの汚れや帯磁が原因で音がかすれたり、ノイズが入ったり、音がふるえたりします。市販のクリーニングテープ、ヘッドレイサーを使って定期的にクリーニングや消磁をしてください。また、特に大切な録音をするとき、古いテープを使ったあとにも清掃することをおすすめします。

- 録音、再生のトータル時間がおよそ10時間になるごとにヘッド部分の清掃をしてください。
 - 消磁は20～30時間をめやすに行なってください。
- * ヘッドのクリーニングや消磁はカセットテープ形のものを使用してください。

リモコンについて

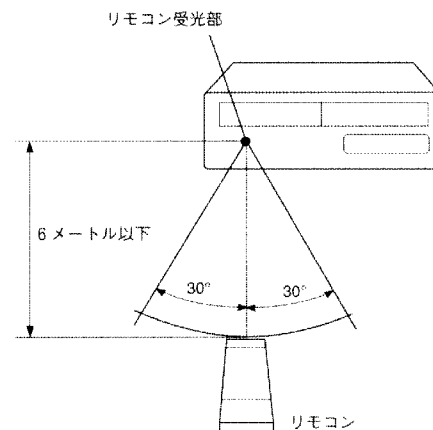
本機は、ヤマハステレオプリメインアンプAX-10に付属のリモコンによって操作することができます。



これらのボタンを本機の操作に使用できます。

- DECK A/B：操作したいデッキを選びます。
- DIR A：デッキAのテープの走行方向を選びます。
- DIR B：デッキBのテープの走行方向を選びます。
- PLAY：テープを走行させます。
- <<<：<<<方向の早送りをします。
- >>>：>>>方向の早送りをします。
- STOP：再生または録音の停止をします。
- REC MUTE：録音中に無録音部分を作るときに押します。
- REC/PAUSE：録音一時停止状態になります。

リモコンの使用範囲



仕様

■形式	4トラック、2チャンネル 録音・再生ダブルカセットデッキ	入力レベル/インピーダンス 出力レベル/インピーダンス S/N比	LINE IN: 100 mV/50 k LINE OUT: 570 mV/2.2 k Dolby NR OFF: 56 dB
■メカニズム部 ワウフラッタ	0.09% W.RMS ±0.19% W.PEAK (EIAJ)	歪率	Dolby B NR: 64 dB Dolby C NR: 72 dB
早送り・早戻し時間 モーター	約120秒 (C-60使用時) DCサーボモーター x 2 (メイン) DCモーター x 2 (トレイ)	セパレーション クロストーク	1.2%(315 Hz、3rd) 40 dB以上 (3150 Hz、EIAJ) 55 dB以上 (125 Hz、EIAJ)
■ヘッド部 録音ヘッド 再生ヘッド 消去ヘッド	ハードパーマロイ x 1 ハードパーマロイ x 1 ダブルギャップフェライト x 1	■総合 定格電源 定格消費電力	AC100 V、50/60 Hz 14 W 5 W (パワーオフ時)
■アンプ部 録音方式 消去方式 総合周波数特性	交流バイアス方式 (105 kHz) 交流消去方式 (105 kHz) 20 - 16,000 Hz ±3 dB (ノーマル、-20 dB) 20 - 17,000 Hz ±3 dB (ハイ、-20 dB) 20 - 19,000 Hz ±3 dB (メタル、-20 dB)	外形寸法(幅x高さx奥行) 重量 付属品	280 x 119 x 360 mm 5.8 kg ピンコード x 2

*仕様および外観は改良のため予告なく変更されることがございます。

故障かなと思ったら

本機の使用中に正常に動作しなくなったときは、下記の事項を確認してください。そのうえで正常に動作しない、あるいは下記以外で何か異常が認められた場合は、本機の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いた後お買い上げ店または最寄りのヤマハ電気音響製品サービス拠点宛、お問い合わせ、サービスをご依頼ください。

症状	原因	処置
電源が入らない。	・電源コードがはずれている。	・電源コードをしっかり差し込んでください。
録音できない。	・カセットテープが入っていない。 ・録音レベルが非常に低くなっている。 ・カセットテープの消去防止用のツメが折られている。	・カセットテープを入れてください。 ・録音するときには、適切な録音レベルに調節してください。 ・カセットテープを交換するか、ツメの部分をセロハンテープなどでカバーしてください。
音がかすれる。雑音が多い。音飛びがする。	・ヘッドが汚れている。 ・ヘッドが帯磁している。 ・テープの走行面が汚れている。 ・接続が不適當。 ・他の機器から発生する電氣的ノイズに影響されている。	・ヘッドを清掃してください。 ・ヘッドイレイサーでヘッドの消磁をしてください。 ・新品のテープと交換してください。 ・入出力の接続を確認し、正しく接続しなおしてください。 ・他の電器製品（テレビ、蛍光灯、電気毛布など）から遠ざけてください。
再生音が歪む。	・テープがいたんでいる。（片伸びなど変形） ・録音レベルが高すぎる。	・新品のテープと交換してください。 ・録音するときには、適切な録音レベルに調節してください。
再生音が聞こえない。	・デッキとアンプなどの接続が適當でない。	・正しく接続してください。
再生音が不安定。	・ヘッドが汚れている、またはテープがいたんでいる。 ・テープがたるんでいる。	・ヘッドを清掃してください。またはテープを交換してください。 ・テープを巻きなおしてください。
頭出しが正しくできない。	・無録音部分が短い。 ・曲の途中で録音レベルが非常に低い部分がある。 ・会話が録音されており、会話の間などが無録音部分とみなされている。 ・フェードインフェードアウト録音されている。	・頭出し機能は無録音部分が4秒以上で働きます。
再生音の音質が悪い。	・ドルビーNRセクターのセットが違っている。 ・プレイトリムの設定がまちがっている。	・録音したときと同じドルビーNRを選んでください。 ・プレイトリムの設定を正しく行ってください。
他のデッキで録音したテープを再生するとき、メーターの示す値が録音時と異なる。	・基本となるレベルは、デッキにより異なる。	・故障ではありません。

ヤマハホットラインサービスネットワーク

ヤマハホットラインサービスネットワークは、本機を末永く、安心してご愛用頂けるためのものです。サービスのご依頼、お問い合わせは、お買い上げ店、またはお近くのサービス拠点にご連絡ください。

- **保証期間**
お買い上げ日より1年間です。
- **保証期間中の修理は**
保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。
- **保証期間が過ぎているときは**
修理によって製品の機能が維持できる場合にはご希望により有料にて修理いたします。
- **修理料金の仕組み**
◆ **技術料**
故障した製品を正常に修復するための料金です。技術者の人件費、技術教育費、測定機器等設備費、一般管理費等が含まれています。
◆ **部品代**
修理に使用した部品代金です。その他修理に付帯する部材等を含む場合もあります。
◆ **出張料**
製品のある場所へ技術者を派遣する場合の費用です。別途、駐車料金をいただく場合があります。
- **補修性能部品の最低保有期間は**
補修性能部品の最低保有期間は、製造打ち切り後8年（テープデッキは6年）です。この期間は通商産業省の指導によるものです。補修性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。
- **持ち込み修理のお願い**
故障の場合、お買い上げ店、または最寄りのヤマハ電気音響製品サービス拠点へお持ちください。
- **製品の状態は詳しく**
サービスをご依頼なさるときは製品の状態をできるだけ詳しくお知らせください。また製品の品番、製造番号などもあわせてお知らせください。
※品番、製造番号は本機背面パネルに表示してあります。
- **摩耗部品の交換について**
本機には使用年月とともに性能が劣化する摩耗部品（下記参照）が使用されています。摩耗部品の劣化の進行度合は使用環境や使用時間等によって大きく異なります。本機を末長く安定してご愛用いただくためには、定期的に摩耗部品を交換されることをお勧めします。摩耗部品の交換は必ずお買い上げ店、またはヤマハ電気音響製品サービス拠点へご相談ください。

摩耗部品の一例

ボリュームコントロール、スイッチ・リレー類、接続端子、ランプ、ベルト、ピンチローラー、磁気ヘッド、光ヘッド、モーター類など

お客様ご相談センター

（ヤマハAV製品に対するお問い合わせ窓口）

TEL (03)5488-5500

〒108 東京都港区高輪2丁目17-11

ヤマハ株式会社

〒430 浜松市中沢町10-1

AV機器事業部

営業部

TEL(053)460-3451

品質保証室

TEL(053)460-3405

住所および電話番号は変更になることがあります。

■ヤマハ電気音響製品サービス拠点

（ヤマハAV製品の故障に関するご相談窓口および修理受付、修理品お持ち込み窓口）

北海道	札幌市中央区南十条西1-1-50 〒064 ヤマハセンター内 TEL(011)513-5036
仙台	仙台市若林区御町5-7 〒983 仙台卸商共同配送センター3F TEL(022)236-0249
首都圏	川崎市中原区木月1184 〒211 TEL(044)434-3100
東京	（お持ち込み修理のみ取扱い） 東京都港区高輪2-17-11 〒108 TEL(03)5488-6625
浜松	浜松市上西町911 ヤマハ(株)宮竹工場内 〒435 TEL(053)465-6711
名古屋	名古屋市中川区玉川町2-1-2 〒454 ヤマハ(株)名古屋流通センター3F TEL(052)652-2230
大阪	吹田市新芦屋下1-16 〒565 ヤマハ(株)千里丘センター内 TEL(06)877-5262
広島	広島市安佐南区西原6-14-14 〒731-01 TEL(082)874-3787
四国	高松市丸亀町8-7 ヤマハ(株)高松店內 〒760 TEL(0878)22-3045
九州	福岡市博多区博多駅前2-11-4 〒812 TEL(092)472-2134

愛情点検



★長年ご使用の本機の点検を！

こんな症状はありませんか？

- 電源コード・プラグが異常に熱い。
- コゲくさい臭いがする。
- 電源コードに深いキズか変形がある。
- 製品に触れるとビリビリと電気を感じる。
- 電源を入れても正常に動作しない。
- その他の異常・故障がある。



すぐに使用を中止してください。

事故防止のため電源プラグをコンセントから抜き、必ず販売店に点検をご依頼ください。
なお、点検・修理に要する費用は販売店にご相談ください。

YAMAHA

VT 56500
Printed in Malaysia